

彦根市立病院



彦根市立病院
〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882番地
TEL : 0749-22-6050 (代)

問い合わせ先 彦根市立病院 地域医療連携室
TEL : 0749-22-6053 FAX : 0749-22-6093



いつもありがとうございます

はじめまして!!
新しい薬剤部長です

薬剤部長

古俵

こたわら



孝明

たかあき



2022年10月1日付で彦根市立病院へ赴任させていただきました。

近年は、インターネットの普及にともないパソコンや携帯電話から簡単に医薬品の情報が入手できるようになりました。しかしながら、これらの膨大な情報には誤った情報も含まれており、患者さんが不利益を被ることも少なくありません。湖東地域に暮らす住民の方々が正しい薬の知識を身につけ、安心してお薬を服用していただくためにも、地域で活動されている医療機関の皆様と連携しながら医薬品の情報を発信していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

皆さま初めまして、薬剤師の古俵といたします。以前は、京都大学と福井大学で病院薬剤師として勤務していました。大学病院は「診療・教育・研究」という3本柱を使命として掲げており、私自身も調剤や病棟での患者指導の傍ら、医学生や薬学生への講義や基礎研究に明け暮れた毎日を過ごしておりました。以前より、将来は地域に住む患者さんや住民のために、病院薬剤師として働きたいと考えていました。湖東地域の中核拠点病院である彦根市立病院は、高度な医療を提供しつつも、地域住民に寄り添うことを基本方針として掲げていることから、自身の経験が少しでも役に立てばと思い、

彦根市立病院 地域医療連携室

業務時間：月～金曜日：午前8時30分～午後7時（但し木曜日は午後5時15分）

土曜日：午前9時～午後12時30分

連絡先：地域医療連携室 TEL0749-22-6053(直通) FAX：0749-22-6093

今後の方向性（ビジョン）！！

～地域との連携強化～

2

2023

地域活動には、**病院や診療所の先生方や看護師さん達との連携**が重要であることは間違いありませんが、我々薬剤師にとっては**保険薬局で勤務する薬剤師さんとの連携**についても重要だと考えています。

◆ 医薬品や患者さんの情報を共有

保険薬局から得られる情報

入院時の患者さんの薬剤情報
・お薬手帳（服用方法や管理方法等）
・お薬説明書
（入院前の服用薬剤について）
外来患者さんの処方箋情報
・疑義照会の問い合わせ
・疑義照会プロトコルの適用事例を報告
・トレーシングレポート
（緊急性は低いが医師に提供すべき
薬剤情報）

入院後の服薬をスムーズに継続
していただくための貴重な情報

薬剤部から発信する情報

退院時の患者さんの薬剤情報
・お薬手帳（入院中の処方変更や副作用等）
・お薬説明書（退院時の服用薬剤について）
・トレーシングレポート
（かかりつけ薬局に特筆すべき薬剤情報）
外来患者さんの院外処方箋情報
・主治医の疑義照会への回答を報告
・回答内容を電子カルテに保存
研修会開催による事例共有
・薬薬連携研修会
・がん薬物療法病薬連携セミナー

退院後も自宅で服薬を継続して
いただくための貴重な情報

**地域で活動する薬剤師の先生方と施設や所属
に関係なく一層の繋がりを持って関係を構築し
ていくことに、今後尽力したいと考えています。**

◆ 地域で活動していきたいこと

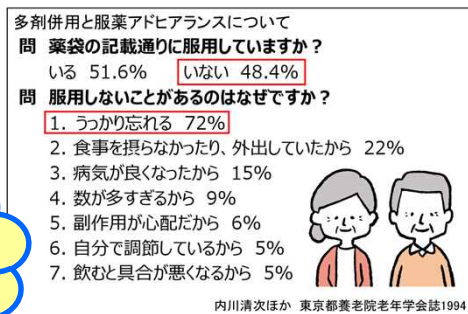
お薬を処方されている患者さんの中には、
医師の指示通りに服用できていない方もお
られます。お薬の服用に関する調査では、
高齢者の約半数にお薬の飲み忘れが見ら
れ、その理由としてほとんどが「うっかり忘れ
る」と回答していました。

医師が必要なお薬を処方したとしても、患
者さんが正しく服用できなければお薬の効
果は期待できません。

**服薬に関する問題を解決していくためにも、
地域住民の皆様へお薬に関する情報をお
伝えしていきたいと考えています。**

どう工夫を
すれば服用で
きるの…？

なぜ服用でき
ないの…？



考えるのは薬剤師の専門分野



患者サポート相談窓口のご紹介

患者サポート相談窓口では、専任の医療メディエーターが患者・患者家族の疾病や療養への不安、相談、ご意見に対応しています。また地域の医療機関、介護・訪問看護事業所、行政などあらゆる機関と連携し、患者さんを中心とした医療や療養の実現にむけ架け橋となるよう連携調整役を担っています。

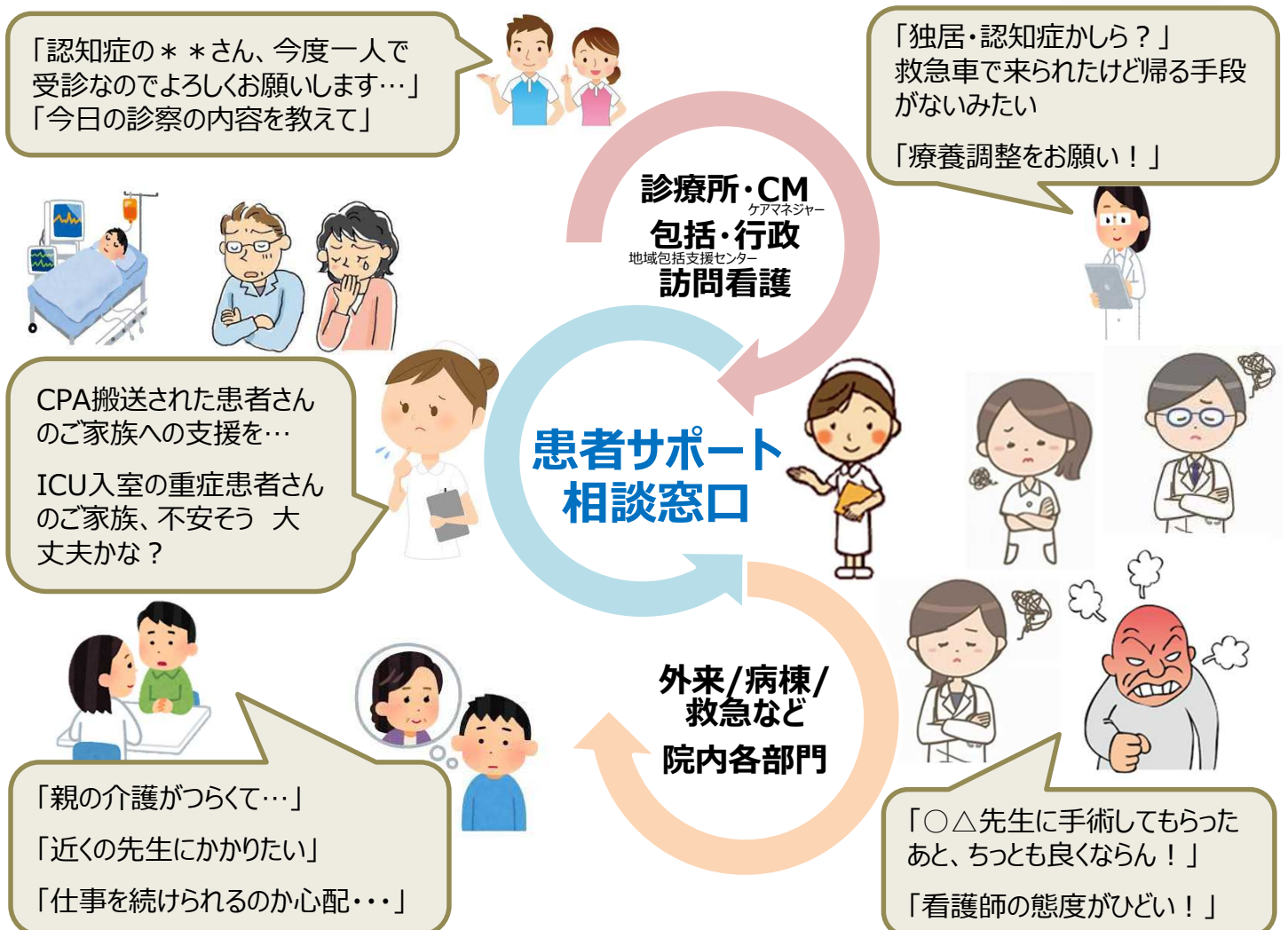


設置場所：外来ホール中央（1階）
相談時間：平日 午前9時～午後5時15分

医療メディエーターとは…

患者と医療者双方の語りを、いずれにも隔たらない位置で共感的に受け止め、自身の見解や評価、判断を示すことなく当事者同士の対話を支援する人をさします

患者サポート相談窓口は当院のゲートキーパー



対立から対話へ

患者サポート相談窓口の重要な役割のひとつにコンフリクトへの対応があります。通常コンフリクトとは、紛争や軋轢あつれきなど対立を意味する言葉として用いられています。

しかし医療メデイエーションでいうコンフリクトとは、「互いの認知が相いれない状況」です。

担当者の
想い

対立はなぜ 起こるのか



昨今は患者さんの権利意識の高まりや、多様性への理解などさまざまな価値観があります。ほんの少しのボタン（言葉）の掛け違いが大きな問題に発展することはしばしばです。しかしその多くはコミュニケーションエラーによるものであることはいうまでもありません。ですからそもそも対立と捉えるのではなく、ケアマインドの視点から対話を重ね、当事者のニーズに沿った対応がメデイエーターには求められます。

対話をもたらすもの

医療メデイエーターは、双方（医療を受ける人と提供する人）が着地点を見つけられるよう、対話による関係性の再構築を支援する役割を担っているといえます。

とはいえ、実際は上手くいかないこともあります。しかし対話を重ねるなかで、たとえ思い描いていた結果にたどり着かなかったとしても、当事者がまた違う道からの歩みを進めていけるよう、対話により「つなぐこと」にこだわり続けていきたいと考えています。

ひきこもり状態のご家族からのSOS！

こんなことが
ありました

ある日の夕刻、A診療所から患者サポートに連絡がありました。「数日前から食事がとれなくなっている患者さんがいる」とのこと。患者さんは、A診療所からご紹介いただき当院で治療中の方でした。

長年引きこもり状態の娘さんが、お父様の急な体調の変化にどのように対応すればいいのか困り果て、勇気を出しA診療所に助けを求めに行かれたようでした。

患者サポートからの連絡を受け、業務時間外であったにもかかわらず、地域包括支援センターや訪問看護事業所の迅速で誠意ある対応のおかげで緊急訪問等が実施され、患者さんは当院へ救急搬送され事なきを得ました。

このケースは、娘さんが引きこもり状態で、他者との交流を苦手とされているなか「なじみの先生」に唯一助けを求めることができたということです。その貴重な機会を逃さず当院の患者サポートに連絡を頂けたことを感謝するとともに、日頃から「つながっている」ことの大切さを痛感した次第です。



今後とも彦根市立病院患者サポート相談窓口をどうぞよろしくお願いいたします。

